

小型船舶における海上通信 システムの評価結果(暫定版)

平成20年6月10日

評価方法等

- ・下の様式の各要件欄の評点(ユーザーのメリット最大5点、最小1点)に左欄の重みづけを乗じ、これをシステムごとに合計した。
- ・今回は、各海上通信システムに詳しいメーカーSWGの各構成員において、別添様式を記入し、平均値を割り出した。

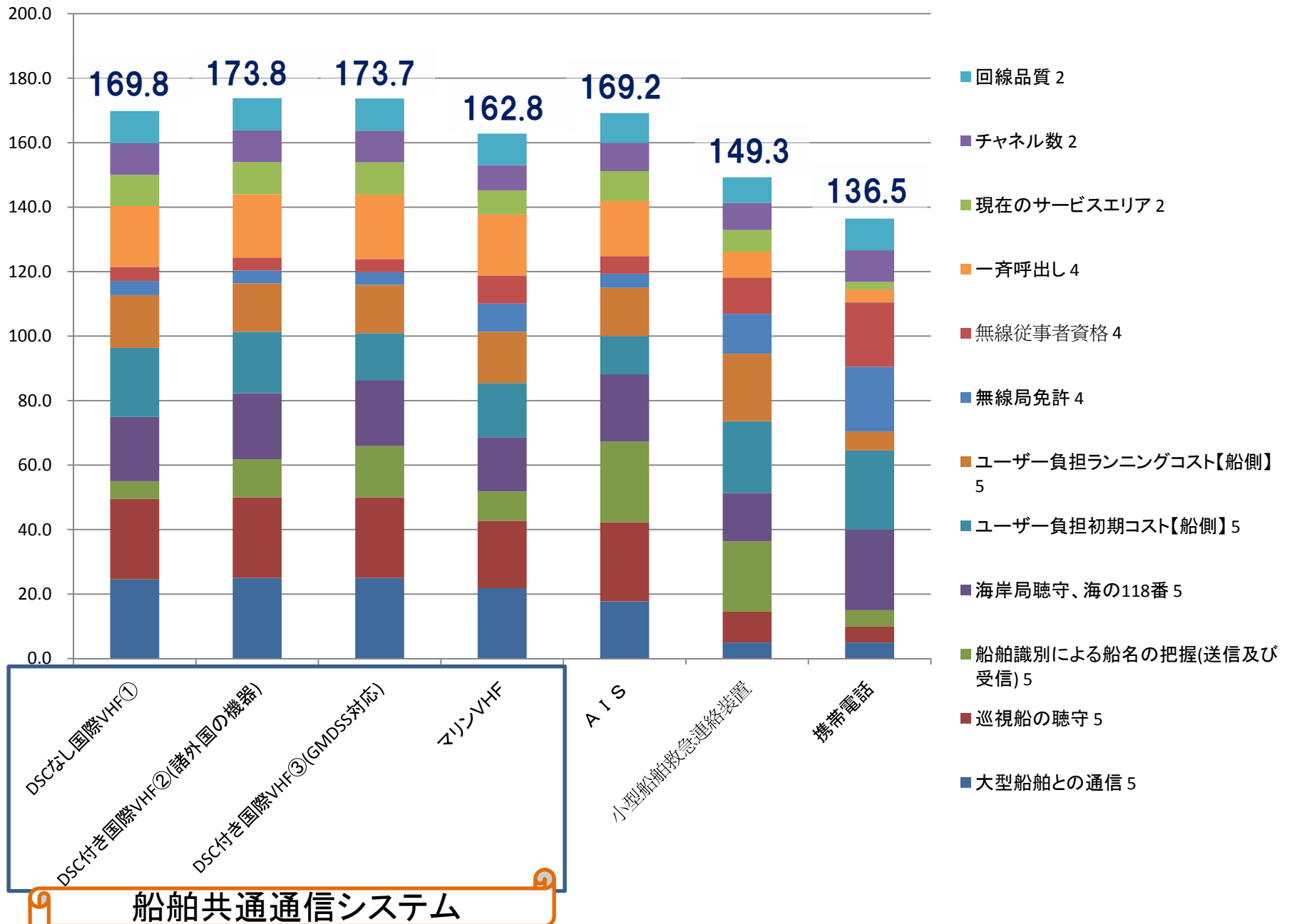
1 既存の海上通信システム

要件	重み	DSCなし 国際VHF①	DSC付き 国際VHF② (諸外国の機器)	DSC付き 国際VHF③ (GMDSS対応)	マリン VHF	A I S	簡易型 A I S	小型船舶 救急連絡装置	携帯電話
大型船舶との通信	5								
巡視船の聴守	5								
ユーザー負担初期コスト 【船側】	5								
ユーザー負担ランニング コスト【船側】	5								
無線局免許【現行】	4								
無線従事者資格【現行】	4								
現在のサービスエリア	2								
海岸局聴守、海の118番	5								
チャンネル数	2								
回線品質	2								
一斉呼出し	4								
船舶識別による船名の把握 (送信及び受信)	5								
評点合計									

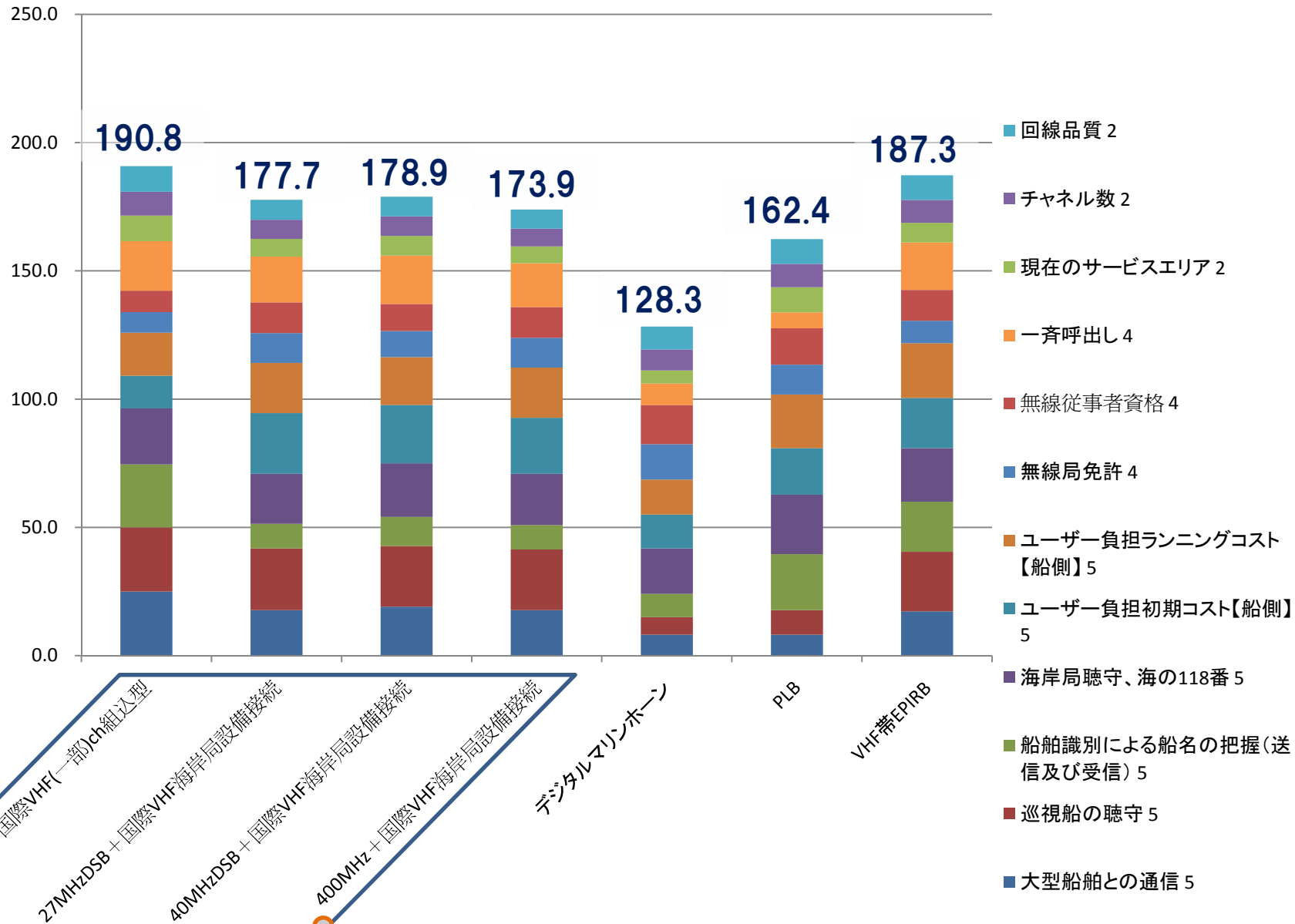
2 新しい海上通信システム

要件	重み	簡易型AIS + 国際 VHF(一部) Ch組込型	27MHzDS B+国際VHF 海岸局設備接 続	40MHzDS B+国際VHF 海岸局設備接 続	400MHz +国際VHF 海岸局設備 接続	デジタル マリンホー ン	海上無線 アドホッ クネット ワーク	PLB	VHF 帯 EPIRB
要件及び重み付けについては、「1 既存の海上通信システム」と同じであるため、省略									

既存の海上通信システム



新しい海上通信システム



船舶共通通信システム

【参考】記入者の補足意見

○システム上の観点

1. 小型船舶救急連絡装置ならびに海上無線アドホックネットワークに関しては、27MHz/40MHzの無線システムの高度化を図ったものなので、それらの無線システムの範疇から出ることは出来ないように思えます。
2. PLB、VHF帯EPIRBならびに小型船舶救急連絡装置は事故を通報するシステムなので、お互いの意思の疎通に使う通信装置なのかどうかとの点が曖昧かと思えます。